

〔 横浜市大佛次郎記念館 〕 令和 7 年度業務計画及び収支予算 〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

- ※ 文中の事業欄において、
●：主催事業 ○：共催事業
を示します。
- ※ 文中の達成指標欄において、
□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施 設 名	横浜市大佛次郎記念館
所 在 地	横浜市中区山下町 113
構 造 ・ 規 模	鉄筋コンクリート造地上 2 階地下 2 階建
敷 地 ・ 延 床 面 積	延床面積 1,108.39 m ² （本館：709.64 m ² 、新館：398.75 m ² ）
開 館 日	昭和 53 年 5 月 1 日

2 指定管理者

法 人 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所 在 地	横浜市中区山下町 2
代 表 者	理事長 近藤 誠一
設 立 年 月 日	平成 3 年 7 月 10 日
指 定 期 間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現 指 定 管 理 者 の 管 理 運 営 開 始 日	平成 28 年 4 月 1 日（昭和 53 年 財団法人大佛次郎記念会管理運営開始）

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

（1）基本的な方針

多様な切り口、多様な手段で大佛作品と大佛次郎の生き方を発信し、読書や創作活動を中心とする文化活動を活性化することにより、生き生きと暮らせる魅力ある街づくりに貢献します。

1 大佛次郎研究の成果を広く還元します

大佛次郎記念館は、大佛次郎に関する唯一の専門施設として、1978 年の開館以来、調査・研究活動を行ってきました。第二期指定管理期間においても、調査・研究を継続するとともに、その成果を展示、刊行、閲覧、WEB 公開等の方法で広く還元していきます。

2 文学を媒介として幅広い文化活動を推進します

「横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方」にそって、文化芸術の振興を図ります。作品や作家の魅力を伝えることにとどまらず、文学を媒介として幅広い文化活動を推進します。子供たちが物語の世界に触れ感性を育む機会の創出、作家の思いを伝える特色ある建築物を生かし

たまちづくりへの関与、観光 MICE 振興につながるエリアの魅力発信により、心豊かな市民生活の実現を目指します。

3 文学館の機能を発揮し心豊かな活力ある社会の形成に寄与します

「文化芸術基本法」第8条において、文学は各分野の最初に記載されています。「言葉」や「物語」は、生きていくために不可欠なものであり、それを希求する心に応えることは、文学館の使命であると考えます。

文学館の基本的な機能である「観る、知る、読む」を展示事業、普及事業、出版・閲覧事業として展開し、「考える」力を深めるきっかけをすることで、心豊かな活力ある社会の形成に寄与します。

4 所蔵資料の活用を推進し、様々な切り口で作家・作品と記念館を周知します

調査・研究機能を強化するため、従来様々な形で記録されてきた所蔵資料のデータを新デジタルアーカイブに一元化します。これにより展示、刊行、記念館内外での活用を促進し、好循環を生み出します。

展示・普及事業の実施にあたっては、「ファッション」「コミック」「食文化」等幅広い切り口で、作品を読んだことのない層を含む幅広い対象に向けて、大佛次郎・大佛作品と記念館を周知します。

5 横浜の魅力を発信し、来館者を誘致します

立地を生かした近隣文化観光施設や企業との連携や、全市的なアーツフェスティバルに参加することで、横浜の魅力を発信します。鎌倉文士として知られる大佛次郎が故郷・横浜に寄せる想いを伝え、「横浜ゆかりの作家といえば大佛次郎」という認識を広めます。来館者誘致にあたっては、横浜はもちろん、文学、歴史、フランス、鎌倉、猫、美術、音楽、舞台芸術等、人々の「好き」に訴求するような発信を行います。

6 あらゆる世代の読書推進活動に参画します

「第二次横浜市民読書活動推進計画」においては、市民の学びの環境を整える方法のひとつとして、読書活動の推進を挙げています。児童から大人までを対象としたビブリオバトル等、これまでの取組に加え、ブックカフェや、図書館や地域施設と連携しての未就学児童への読み聞かせを実施し、あらゆる世代の読書推進活動に参画します。

(2) 令和7年度の業務の方針

ア 全体について

資料調査・研究を基幹として事業を展開し、文学館の基本的機能である「観る、知る、読む」を持続させます。

本指定管理期間の大きな目標の1つであった新デジタルアーカイブを令和6年度中に稼働させることができました。令和7年度は実際に本デジタルアーカイブによる資料の管理を行います。

事業においては、新たな分野との連携・協働に挑戦します。テーマ展示Ⅱ「藤井健司×大佛次郎『帰郷 Homecoming』」では、大佛次郎の戦後の代表作の一つ「帰郷」を結節点とした、日本画家、藤井健司とのコラボレーション展示を行います。またテーマ展示Ⅰ「野尻抱影生誕140年記念展」では、天文関係の雑誌や博物館、プラネタリウム等と連携した関連事業を予定しています。

管理運営面では、令和6年度中に横浜市に調査・設計いただいた館内照明のLED化工事をはじめ、場合によっては休館をとまなう設備更新が予定されています。来場者への影響を最小限とするよう、速やかに対応してまいります。また施設の老朽化に対応した小破修繕は、令和7年度も予防を含めてしっかりと対処します。

イ 使命1 大佛次郎に関する調査・研究を深める

- ・ 新デジタルアーカイブへのデータ追加（画像含む）および公開
- ・ 特別資料整理期間を活用した資料の棚卸、デジタル化
- ・ 資料保存環境の整備

ウ 使命2 大佛次郎の業績を広く普及する

- ・ おさらぎ選書第30集発行準備（令和8年度刊行）
- ・ テーマ展示Ⅰ～Ⅲの実施

エ 使命3 幅広い市民等が文学に関する文化に触れる機会を提供する

- ・ ビブリオバトルシリーズの実施。ミニビブリオバトル（小学4～6年生）、中高生ビブリオバトルの他、大人を対象としたビブリオバトルを実施することで、全世代を対象とする

オ 使命4 市民に文化を中心とした活動の場を提供する

- ・ NPOや市民団体と連携し、施設利用につながる取組の実施。

カ 使命5 文学を媒介としたネットワーク構築を推進する

- ・ テーマ展示Ⅰ「野尻抱影生誕140年」（仮）における、博物館等との連携
- ・ テーマ展示Ⅱ 藤井健司×大佛次郎「帰郷 Homecoming」における美術分野との連携

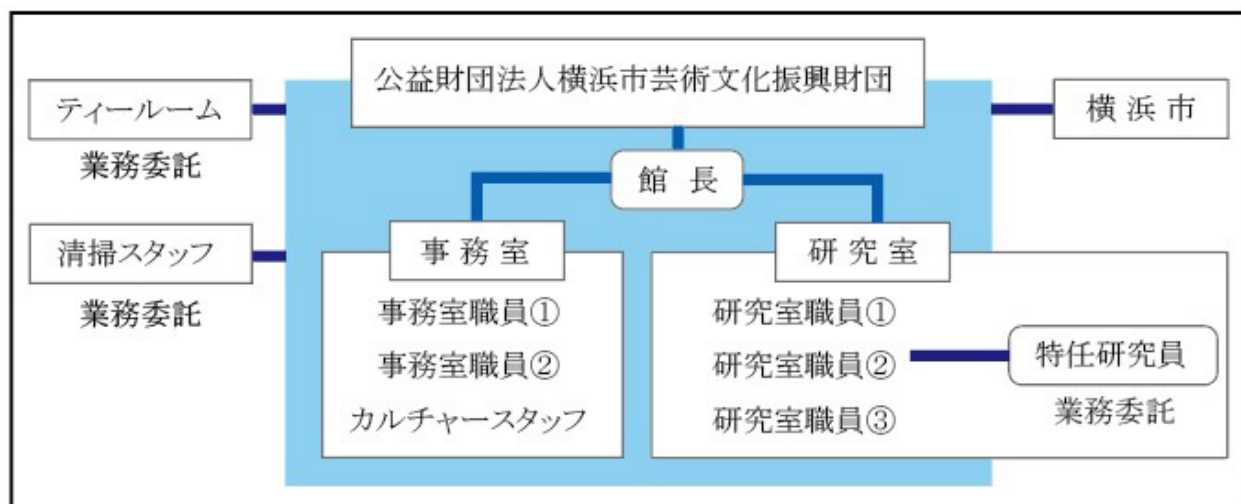
キ 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

- ・ 小破修繕は迅速に対応し、安全・安心・快適な環境を確保する。

ク 使命7 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

感染症の状況を注視しながら、職員の健康管理を行いながら安全な運営を行う。

4 運営組織の構造、人員配置



(1) 事務職員

- ア 館長は、管理・運営・事業全般に精通するとともに、文化芸術活動に関する幅広い知識と経験を有する職員を配置します。
- イ 小人数で運営する職場のため、事業、施設管理については専任を置かず、館長を補佐する中堅職員を1名配置とそれを補助する臨時雇用職員1名を配置します。
- ウ 窓口業務や電話対応業務を担当するカルチャースタッフ（臨時雇用職員）を、常時1名配置します。

(2) 研究室職員

- ア 大佛次郎に関する知見を有し、展覧会の企画立案、図書、所蔵資料等の研究・整理、おさらぎ選書の編集等のノウハウと、大佛次郎研究に欠かせない日本文学、フランス文学、歴史等の知識を有する研究室職員（2名）の配置に加え、令和7年度は補助員に代えて職員1名を配置し、専門性を強化します。
- イ 学術的見地から助言や提案を行う、特任研究員1名を配置します。

5 令和7年度の業務の取組

I 文化事業

(1) 文化事業

令和7年度は、令和6年中に稼働したデジタルアーカイブを活用し、データの追加、整理、をすすめてデータベースを充実させます。

また令和7年度は、多ジャンルとの連携・協働に挑戦する年となります。テーマ展示Ⅱ「藤井健司×大佛次郎『帰郷 Homecoming』」では、大佛次郎の戦後の代表作の一つ「帰郷」を結節点とした、日本画家・藤井健司とのコラボレーションを行います。また生誕140年を記念したテーマ展示Ⅰ「野尻抱影生誕140年記念展」では、天文系の雑誌や博物館、プラネタリウム等と連携した関連事業を予定しています。テーマ展示Ⅲでは、愛猫家としても有名な大佛次郎の数々の猫コレクションを紹介する展示を行います。同時期に開催する公募展「猫写真展」とあわせ全館で「猫」をテーマとした愛猫家必見の展示を開催します。

(2) 施設運営

貸出施設（和室・会議室）の利用例を紹介するなど、利用促進を行います。具体的な取組内容や指標は、指定管理業務計画表に記載します。

(3) 施設管理

法令等にのっとりた施設の保守・点検等を着実にを行い、安全安心を確保します。また、長寿命化や大規模改修に向けた調査や工事に、積極的に協力します。

具体的な取組内容や指標は、指定管理業務計画表に記載します。

(4) 収支

堅実な収支計画を立て、物価高騰の影響等をふまえて期中に見直しを行いながら執行します。各種割引提携による観覧者誘致の中では、連携先と相互割引等を実施します。

(5) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

モニタリングや政策経営協議会の場合を有効に活用し、所管局と連携しながら、提案書の内容を具体化させます。具体的な取組内容や指標は、指定管理業務計画表に記載します。

(6) その他

関係法令の遵守や個人情報保護に施設全体で取り組むことに重点を置きます。

具体的な取組内容や指標は、指定管理業務計画表に記載します。

6 使命の指標の達成状況

(1) 使命1 大佛次郎に関する調査・研究を深める

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	研究成果物の発表回数	刊行物 編集	刊行物 1冊	刊行物 1冊	—	—	刊行物 累計3冊	—
2 ★	資料調査の対象カテゴリーの数	2カテゴリー	—	新DB移行のため現行システムへは追加無	—	—	5カテゴリー／5年	—
3 ★	温湿度点検と保存環境点検の回数、特別資料整理の期間	温湿度点検	2回／日	2回／日	—	—	2回／1日	
		保存環境点検	1日／1か月	1日／1か月	1日／1か月		1日／1か月	
		特別資料整理の期間	1週間／年	—	出版のため期間設けず		1週間／年	
4 ★	特別資料調査期間の結果を、新デジタルアーカイブに流し込む点数	準備	—	301	—	—	180点	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	収蔵作品の状況把握	R 4 実績	特別資料調査期間及び日常的な資料の状態確認実施
		R 5 達成指標	特別資料調査期間及び日常的な資料の状態確認
		R 5 実績	・ R5 は没後 50 年のため特別資料整理期間は設けず。 ・ ポール・ルヌアール版画 6 点の修復実施 ・ 日常的な資料の状態確認実施。
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	優先度に応じた資料修復
		R 8 実績	—
2	研究成果物の読者の声	R 4 実績	刊行に向けた準備
		R 5 達成指標	『日記』刊行時WEBアンケート実施
		R 5 実績	・ 記念館販売分は書籍に差込のWEBアンケートの実施 ・ 出版社販売分は読者カードの差込
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—

3 ★	新デジタルアーカイブのHPでの閲覧・検索機能の構築	R 8 達成指標	WEBアンケート検証
		R 8 実績	—
		R 4 実績	新デジタルアーカイブデータ移行準備
		R 5 達成指標	新デジタルアーカイブに画像データを加える
		R 5 実績	画像データ 301 件追加（非公開分含む）
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	HPで閲覧・検索ができる
		R 8 実績	—

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

- ・ デジタルアーカイブに画像データ 800 点を追加し、内 300 点を公開します
- ・ 「おさらぎ選書第 30 集」（令和 8 年度刊行）の準備をすすめます。

（2） 使命2 大佛次郎の業績を広く普及する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	自主事業の来館者数（観覧者数）	15,656	【没後 50 年】 21,000 人/年	18,432	—	—	18,500 人/年	—
2	来館者（参加者）の満足度（アンケート調査）／5 点満点	4.7	満足度 平均 4.4 以上	4.7			満足度 平均 4.4 以上	
3 ★	レファレンス内容をWEBで紹介する件数	3 件/年	3 件/年	3 件/年			3 件/年	
4 ★	既存データを引き継ぎ、新デジタルアーカイブで公開するカテゴリーの数（2023 年～）	準備	—	準備			10 件/4 年	

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	来館者の声	R 4 実績	聞き取りアンケートの実施準備
		R 5 達成指標	聞き取りアンケートの実施
		R 5 実績	聞き取りアンケートの実施（3/7～3/16）
		R 6 実績	—

		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	来館者の声の反映
		R 8 実績	—
2 ★	大佛次郎の今日的意義を作品や生き方を現代の視点から捉え直し文学館活動を通じて伝える (提案書様式9、2ページより抜粋)	R 4 実績	展示やSNSを通して、大佛次郎の今日的意義を伝える
		R 5 達成指標	来館者やHP来訪者に、大佛次郎の今日的意義を伝える
		R 5 実績	展示やSNSを通して、大佛次郎の今日的意義を伝える
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	来館者やHP来訪者に、大佛次郎の今日的意義を伝える
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

- ・ 他ジャンルとの協働、連携を行うことで、作家・大佛次郎を知っていただく機会を拡大し、来場者の増加につなげます。テーマ展Ⅰ「野尻抱影生誕140年」展では、天文関連の雑誌や博物館、テーマ展示Ⅱ 藤井健司×大佛次郎「帰郷 Homecoming」では、美術分野との連携に挑戦し、来館者の裾野を広げます。
- ・ テーマ展示Ⅲでは、愛猫家としても有名な大佛次郎の数々の猫コレクションを紹介します。10回目の節目の開催となる公募展「大佛次郎×ねこ写真展」とあわせ、全館で愛猫家を呼び込む展示を開催します。

(3) 使命3 幅広い市民等が文学に関する文化に触れる機会を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	各種文化事業の実施回数	22回/年	16回/年	42	—	—	17回/年	—
2	来館者(参加者)の満足度/5点満点	4.2	満足度平均4.5以上	4.1	—	—	満足度平均4.5以上	—
3 ★	新規イベント実施回数	3回	—	4回	—	—	累計5回以上	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	来館者(参加)	R 4 実績	聞き取り調査の実施に向けた準備

	者) の声	R 5 達成指標	聞き取り調査の実施
		R 5 実績	聞き取り調査の実施 (3/7～3/16)
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	聞き取り調査内容の反映
		R 8 実績	—
2 ★	継続事業の工夫	R 4 実績	「大佛次郎×ねこ写真展 2023」は、近隣ねこ関係展示と連携し、“猫聖地めぐり”を案内
		R 5 達成指標	継続事業は、リピーターにも目新しく映るよう、内容や手法に新たな工夫を加える
		R 5 実績	「大佛次郎×ねこ写真展 2024」は、ミナトノアート実行委員会との共催で「ミナトノネコ@大佛次郎記念館」を実施
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	継続事業は、リピーターにも目新しく映るよう、内容や手法に新たな工夫を加える
		R 8 実績	—

ウ 使命 3 を達成するために重点的に取り組む事項

- ・ あらゆる世代が文学館や文学作品に親しむ機会の提供など、幅広い世代を対象に参加型の事業を実施します。
- ・ テーマ展示の関連事業において、様々なジャンルと協働による連携事業を用意し、幅広い興味の人々が記念館事業に参加するきっかけをつくります

(4) 使命 4 市民に文化を中心とした活動の場を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	貸館利用率	和室	28.3%	24%	26%	—	—	30%	—
		会議室	43.4%	33%	42%	—	—	42%	—
2 ★	入館者数		18,279 人	25,000 人/年	22,384 人/年	—	—	22,500 人/年	—
3 ★	撮影利用件数		23 件/年	10 件以上/年	9 件/年	—	—	10 件以上/年	—
4 ★	WEB 来訪者数		278,054	300,000 件以上/年	286,655			300,000 件以上/年	

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者との意見交換等による現状把握	R 4 実績	意見交換会開催にむけた準備
		R 5 達成指標	意見交換会開催
		R 5 実績	意見交換会の準備および日程調整の実施
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	意見の検証と反映
		R 8 実績	—
2★	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す	R 4 実績	掲示板設置のための調査
		R 5 達成指標	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す
		R 5 実績	施設利用者のためのチラシラックを設置し、情報共有を促した
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す
		R 8 実績	—
3★	施設の活用方法の提案	R 4 実績	施設利用例をブログや SNS で紹介
		R 5 達成指標	利用者の声や、施設利用例が、HP や SNS 投稿等により情報発信されている
		R 5 実績	施設利用例をブログで紹介
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	利用者の声や、施設利用例が、HP や SNS 投稿等により情報発信されている
		R 8 実績	—

ウ 使命 4 を達成するために重点的に取り組む事項

令和 6 年度にリニューアル後のホームページを活用し、SNS との連携により発信力を高めるとともに、和室や会議室の活用事例紹介などを行い、利用促進につなげます。

（５） 使命 5 文学を媒介としたネットワーク構築を推進する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	地域の施設・団体と連携して	新規連	新規連	新規連	—	—	新規連	—

	実施した事業数	携事業 6 件	携累計 3 件	携事業 28 件			携累計 7 件	
2 ★	連携する団体数の増	4 件/ 年	1 件以 上/年	5 団体 ／年	—	—	1 件以 上/年	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通 番	項 目	達成指標と各年度の実績	
1	連携したこと による関係者 の声	R 4 実績	連携先との意見交換
		R 5 達成指標	聞き取り調査の実施
		R 5 実績	連携先アンケートの実施
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	聞き取り調査の反映
		R 8 実績	—
2	他の文学館と の意見交換等 による現状把 握	R 4 実績	全国文学館協議会会員間の情報共有
		R 5 達成指標	全国文学館協議会共同討議参加
		R 5 実績	神奈川近代文学館との情報交換
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	他館の事例を検討し運営に反映
		R 8 実績	—
3 ★	記念館ボラン ティアを継続 して運営し、 事業や運営に 市民参加が行 われている	R 4 実績	記念ボランティアの事業運営への参加
		R 5 達成指標	記念館ボランティアを継続して運営し、事業や運営に市民参加が行われている
		R 5 実績	事業に関するヒアリング、事業運営への参加
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	記念館ボランティアを継続して運営し、事業や運営に市民参加が行われている
		R 8 実績	—

ウ 使命 5 を達成するために重点的に取り組む事項

大佛次郎没後 50 年記念事業等により得た、新たなネットワークを活用し、事業や広報における連携を促進します。

（6） 使命 6 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0 件	0 件	0 件	—	—	0 件	—
2	法定点検等の実施率	100%	100%	100%	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	97%	90%	269%	—	—	90%	—
4 ★	施設の快適度についてのアンケート調査結果 /5 点満点	4.6	平均 4.0 以上	4.2	—	—	平均 4.0 以上	—
5 ★	施設内外の巡回点検回数	2 回／ 日	2 回/ 日	2 回／ 日	—	—	2 回/ 日	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	利用時に意見を伺う
		R 5 達成指標	ヒアリングを実施
		R 5 実績	ヒアリングを実施（3/7～16）
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	ヒアリングを反映した運営
		R 8 実績	—
2 ★	管理運営費水準の要因分析	R 4 実績	年数回の分析と調整
		R 5 達成指標	年数回の細やかな分析
		R 5 実績	年数回の分析と調整
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	分析の継続
		R 8 実績	—

ウ 使命 6 を達成するために重点的に取り組む事項

法令等にとった施設の保守・点検等を着実にを行い、安全安心を確保します。
 予防も含めた小破修繕を速やかに行い、来場者の安全安心快適を確保します。

令和7年度 「大佛次郎記念館」 収支予算書及び報告書

収入の部 (税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	56,085,000		56,085,000		56,085,000	横浜市より
利用料金収入	1,000,000		1,000,000		1,000,000	和室会議室利用料金収入
自主事業収入	2,175,000		2,175,000		2,175,000	コレクション展収入・事業収入
雑入	3,891,000	0	3,891,000	0	3,891,000	
協賛金・助成金・負担金・寄附金	1,170,000		1,170,000		1,170,000	特定預金取崩収入（テーマ展示Ⅱ）および民間助成金
シヨップ収入	1,600,000		1,600,000		1,600,000	
商用撮影・特別利用料	51,000		51,000		51,000	
ティールーム設備使用料	1,070,000		1,070,000		1,070,000	
収入合計	63,151,000	0	63,151,000	0	63,151,000	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	42,125,000	0	42,125,000	0	42,125,000	
給与・賃金	35,259,000		35,259,000		35,259,000	カルチャースタッフおよび特任研究員人件費含む
社会保険料	4,445,000		4,445,000		4,445,000	
通勤手当	1,520,000		1,520,000		1,520,000	
健康診断費	28,000		28,000		28,000	
勤労者福祉共済掛金	30,000		30,000		30,000	
退職給付引当金繰入額	843,000		843,000		843,000	
事務費	2,904,000	0	2,904,000	0	2,904,000	
旅費	20,000		20,000		20,000	
消耗品費	220,000		220,000		220,000	
会議ठीい費	5,000		5,000		5,000	
印刷製本費	160,000		160,000		160,000	施設パンフレット等
通信費	510,000		510,000		510,000	
使用料及び賃借料	1,193,000	0	1,193,000	0	1,193,000	
横浜市への支払分	813,000		813,000		813,000	目的外利用料
その他	380,000		380,000		380,000	OA機器賃借料
図書購入費	150,000		150,000		150,000	資料収集
施設賠償責任保険	45,000		45,000		45,000	施設賠償責任保険および動産総合保険
職員等研修費	5,000		5,000		5,000	
振込手数料	30,000		30,000		30,000	
リース料	420,000		420,000		420,000	
手数料	133,000		133,000		133,000	粗大ごみ処理
地域協力費	13,000		13,000		13,000	
事業費	4,080,000	0	4,080,000	0	4,080,000	
自主事業費	4,080,000		4,080,000		4,080,000	テーマ展示Ⅱ 規模拡大
管理費	7,394,000	0	7,394,000	0	7,394,000	
光熱水費	2,374,000	0	2,374,000	0	2,374,000	
電気料金	2,100,000		2,100,000		2,100,000	
ガス料金			0		0	
水道料金	274,000		274,000		274,000	
清掃費	2,800,000		2,800,000		2,800,000	
修繕費	900,000		900,000		900,000	
機械警備費	256,000		256,000		256,000	
設備保全費	1,064,000	0	1,064,000	0	1,064,000	
空調衛生設備保守	220,000		220,000		220,000	
消防設備保守	154,000		154,000		154,000	
電気設備保守	180,000		180,000		180,000	
害虫駆除清掃保守	300,000		300,000		300,000	
駐車場設備保全費			0		0	
その他保全費	210,000		210,000		210,000	
共益費			0		0	
公租公課	3,510,000	0	3,510,000	0	3,510,000	
事業所税	0		0		0	
消費税	3,507,000		3,507,000		3,507,000	
印紙税	3,000		3,000		3,000	
その他（ ）	0		0		0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	3,138,000	0	3,138,000	0	3,138,000	労務経理事務の負担金、経理等の本部一括導入システム使用料実
本部分	3,138,000		3,138,000		3,138,000	
当該施設分			0		0	
二一ス対応費			0		0	
支出合計	63,151,000	0	63,151,000	0	63,151,000	
差引	0	0	0	0	0	